

源氏物語研究ハンドブック（補遺）

吉海直人

本目録は、吉海編『源氏物語研究ハンドブック1・2・3』の補遺として、各冊刊行後の論文を集成したものである。ただし各冊の項目を統合し、I巻別・II引用・IIIテーマ別・IV動植物・V語彙の順に再編した。また新たに付け加えた項目もある。今回はそのうちのI～IIIである。

目次

I 巻別研究文献目録

- | | | | |
|---|-----------------|----|-----------------|
| 1 | 桐壺巻研究文献目録（1～29） | 2 | 帚木巻研究文献目録（1～11） |
| 3 | 空蟬巻研究文献目録（1～8） | 4 | 夕顔巻研究文献目録（1～28） |
| 5 | 若紫巻研究文献目録（1～13） | 6 | 末摘花巻研究文献目録（1～4） |
| 7 | 紅葉賀巻研究文献目録（1～4） | 8 | 花宴巻研究文献目録（1～5） |
| 9 | 葵巻研究文献目録（1～9） | 10 | 賢木巻研究文献目録（1～5） |
- (252)

II 引用関係研究文献目録

- 11 花散里卷研究文献目録 (1) 3)
- 13 明石卷研究文献目録 (1) 9)
- 1 伊勢物語引用) 関係研究文献目録 (1) 3)
- 3 王昭君引用) 関係研究文献目録 (1) 2)
- 5 蜻蛉日記引用) 関係研究文献目録 (1) 4)
- 7 竹取物語引用) 関係研究文献目録 (1) 7)
- 9 日本書紀引用) 関係研究文献目録 (1) 15)
- 12 須磨卷研究文献目録 (1) 6)
- 2 宇津保物語引用) 関係研究文献目録 (1) 4)
- 4 落窪物語引用) 関係研究文献目録 (1)
- 6 住吉物語引用) 関係研究文献目録 (1)
- 8 長恨歌引用) 関係研究文献目録 (1) 8)
- 10 枕草子引用) 関係研究文献目録 (1) 4)

III テーマ別関係研究文献目録

- 1 雨) 関係研究文献目録 (1) 12)
- 3 一夫多妻) 関係研究文献目録 (1) 11)
- 5 絵) 関係研究文献目録 (1) 3)
- 7 音楽) 関係研究文献目録 (1) 19)
- 9 陰陽道) 関係研究文献目録 (1) 10)
- 11 霞・霧・雲) 関係研究文献目録 (1) 4)
- 13 河原院) 関係研究文献目録 (1)
- 15 桐壺更衣) 関係研究文献目録 (1) 2)
- 17 後見) 関係研究文献目録 (1) 3)
- 19 齋院) 関係研究文献目録 (1) 2)
- 2 衣装) 関係研究文献目録 (1) 2)
- 4 宇治橋姫) 関係研究文献目録 (1) 2)
- 6 親子) 関係研究文献目録 (1) 6)
- 8 女にて見る) 関係研究文献目録 (1)
- 10 垣間見) 関係研究文献目録 (1) 6)
- 12 形代・ゆかり) 関係研究文献目録 (1) 11)
- 14 髪) 関係研究文献目録 (1) 4)
- 16 後宮) 関係研究文献目録 (1)
- 18 高麗の相人) 関係研究文献目録 (1) 5)
- 20 齋宮) 関係研究文献目録 (1) 3)

- 21 〈催馬楽〉 関係研究文献目録 (1) 8)
- 23 〈さすらい〉 関係研究文献目録 (1) 3)
- 25 〈従者〉 関係研究文献目録 (1) 6)
- 27 〈親王・皇女〉 関係研究文献目録 (1) 13)
- 29 〈前坊・先帝〉 関係研究文献目録 (1) 7)
- 31 〈月〉 関係研究文献目録 (1) 11)
- 33 〈調度〉 関係研究文献目録 (1) 4)
- 35 〈匂ひ〉 関係研究文献目録 (1) 15)
- 37 〈仏教〉 関係研究文献目録 (1) 11)
- 39 〈乳母〉 関係研究文献目録 (1) 7)
- 41 〈物語〉 関係研究文献目録 (1) 8)
- 43 〈雪〉 関係研究文献目録 (1) 5)
- 45 〈老人〉 関係研究文献目録 (1) 4)
- 47 〈笑ひ〉 関係研究文献目録 (1) 7)
- 22 〈さうじみ〉 関係研究文献目録 (1)
- 24 〈死〉 関係研究文献目録 (1) 15)
- 26 〈身体〉 関係研究文献目録 (1) 5)
- 28 〈宿世〉 関係研究文献目録 (1) 3)
- 30 〈僧〉 関係研究文献目録 (1) 3)
- 32 〈罪〉 関係研究文献目録 (1) 2)
- 34 〈涙〉 関係研究文献目録 (1) 4)
- 36 〈女房〉 関係研究文献目録 (1) 16)
- 38 〈紫〉 関係研究文献目録 (1)
- 40 〈ものけ〉 関係研究文献目録 (1) 15)
- 42 〈病〉 関係研究文献目録 (1) 12)
- 44 〈夢〉 関係研究文献目録 (1) 9)
- 46 〈童〉 関係研究文献目録 (1) 5)

I 卷別研究文献目録

1 桐壺卷研究文献目録

1 金 鍾 徳 「高麗人の予言と作意―観相説話との関わりから―」『ことばが拓く古代文学史』(笠間書院) 平成

11年3月

2 山崎 良幸・和田明美『源氏物語注釈一』(風間書房) 平成11年9月

3 乙女 利光「桐壺巻の表現構造―他者によって規定される光源氏―」早稲田大学教育学研究科紀要7・平成11年9月

4 広瀬 英史「使用頻度“0”の語の語彙の分析―『源氏物語』(桐壺巻)を使った語彙研究―」『語彙と意味』(和泉書院日本語論究6) 平成11年12月

5 郭 潔 梅「長恨歌伝」と平安文学―『源氏物語』桐壺巻に及ぼす影響を中心に―」中国文学会紀要20・平成11年

6 田中 洋子「『源氏物語』桐壺巻における李夫人説話」学習院大学上代文学研究25・平成12年3月

7 植田 恭代「限りあらん道にもおくれ先立たじ、と反逆する愛のゆくえ」国文学45―9・平成12年7月

8 小山 清文「桐壺更衣の「遺言」の意義―源氏物語における「女」の「声」―」国文学雑誌64・平成12年7月

9 星野 五彦「文芸心理学から見た源氏物語―桐壺巻の嫉妬を中心に―」解釈学29・平成12年7月

10 郭 潔 梅「『源氏物語』桐壺巻と漢武帝の故事」和漢比較文学25・平成12年8月

11 呉 羽 長「『桐壺』巻考―創作におけるその位相をめぐって―」富山大学国語教育25・平成12年11月

12 河添 房江「源氏物語の時空―桐壺巻を起点として―」解釈と鑑賞65―12・平成12年12月

13 藤河家利昭「『亭子院』引用の意義―桐壺巻の「長恨歌の御絵」を通して―」広島女学院大学国語国文学誌30・平成12年12月

14 田中 隆昭「菅原道真と渤海使―「高麗人と文作りかはす」という表現の背景―」平安朝文学研究復刊9・

平成12年12月

- 15 植田 恭代 「御局「桐壺」考」跡見学園女子大学国文学科報29・平成13年3月
- 16 島田とよ子 「桐壺更衣―女御昇格を中心に―」園田国文22・平成13年3月
- 17 東原 伸明 「『源氏物語』桐壺」巻頭の言説分析・再説―語り手の感情の主観表出と敬語の使用―」高知女子大学文化論叢3・平成13年3月
- 18 渡辺 仁史 「いづれの御ときにか」『平安文芸史攷』（新典社）平成13年5月
- 19 藤井日出子 「近藤清石転写本から見た現存麦生本の問題点―桐壺巻の本文―」名古屋平安文学研究会会報26・平成13年6月
- 20 日向 一雅 「『桐壺』巻の準拠についての諸注集成と注解―源氏物語の準拠・典拠についての研究（二）―」文芸研究86・平成13年8月
- 21 松田 成穂 「『源氏物語』初期の巻々の方法に関する臆断『源氏物語の世界』（風間書房）平成13年9月
- 22 星山 健 「『桐壺』巻論―〈主人公／敵役〉生成のダイナミズム―」『源氏物語の世界』（風間書房）平成13年9月
- 23 望月 郁子 「桐壺帝の抵抗・挫折・再起―桐壺巻を帝サイドから読む―」二松学舎大学人文論叢67・平成13年10月
- 24 島田 良二 「源氏物語の冒頭は果たして伊勢集の影響か」むらさき38・平成13年12月
- 25 藤河家利昭 「桐壺巻の『長恨歌』と和歌との関係」広島女学院大学国語国文学誌31・平成13年12月
- 26 秋 貞淑 「『予言』と『謎』との連関―桐壺巻における高麗の相人の予言―」古代文学研究第二次11・平成14年10月

(256)

- 27 高橋 文二 「あはれ」小見―『源氏物語』「桐壺」卷・「幻」卷の美意識をめぐって―『紫式部の方法源氏物語紫式部集紫式部日記』(笠間書院) 平成14年11月
- 28 鈴木 良治 「桐壺卷の歌一首」『平安朝文学表現の位相』(新典社) 平成14年11月
- 29 吉海 直人 『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月

2 帚木卷研究文献目録

- 1 武原 弘 「『源氏物語』 主題論予備考説―帚木卷「雨夜の品定め」女性論の主題性について―」日本文学研究 34・平成11年1月
- 2 大野 祐子 「帚木・空蟬卷についての一考察―源氏の心情の変化から―」東洋大学大学院紀要 35・平成11年2月
- 3 宮武 寿江 「『源氏物語』 帚木三帖攷―光源氏の「御曹司」・「御宿所」をめぐって―」國學院大學大学院文学研究科論集 26・平成11年3月
- 4 山崎 良幸・和田明美 『源氏物語注釈一』(風間書房) 平成11年9月
- 5 三谷 邦明 「呪われた実存―帚木・空蟬卷における光源氏あるいは企図しない／する時間―」国際文化研究 紀要 5・平成11年10月 ↓ 『源氏物語の言説』(翰林書房) 平成14年5月
- 6 西田 禎元 「〈雨夜の品定め〉と〈三周説法〉」『日本文学と『法華経』』(論創社) 平成12年7月
- 7 後藤 祥子 「中川の宿―「帚木」卷読解―」国文目白 40・平成13年2月
- 8 鈴木日出男 「空蟬物語の形成」『源氏物語の世界』(風間書房) 平成13年9月
- 9 日向 一雅 「『帚木』卷の準拠・典拠についての諸注集成と注解―源氏物語の準拠・典拠についての研究(二)

— 文芸研究 88・平成14年9月

- 10 吉見 健夫 「空蟬物語の和歌—歌物語的方法と物語形成—」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年3月
- 11 平野 美樹 「雨夜の品定め」考—女を語る男の事情—」『日本文学』52—6・平成15年6月

3 空蟬巻研究文献目録

- 1 日向 一雅 「帚木」三帖の主題『源氏物語の主題上』(風間書房源氏物語研究集成一) 平成10年6月
- 2 大野 祐子 「帚木・空蟬巻についての一考察—源氏の心情の変化から—」『東洋大学大学院紀要』35・平成11年2月

- 3 三谷 邦明 「呪われた実存—帚木・空蟬巻における光源氏あるいは企図しない／する時間—」『国際文化研究』紀要5・平成11年10月 ↓ 『源氏物語の言説』(翰林書房) 平成14年5月

- 4 金 秀 姫 「空蟬物語の「いとなつかしき人香」考—『古今集』との表現的関連について—」『むらさき』37・平成12年12月

- 5 倉田 実 「源氏物語「空蟬」巻の巻末歌をめぐって」『大妻国文』32・平成13年3月

- 6 池 浩三・倉田 実編 『源氏物語の鑑賞と基礎知識』(至文堂) 平成13年5月

- 7 神尾 暢子 「源語空蟬の自己規定—用語「身」と自己認識—」『大阪教育大学表現研究』13・平成13年8月

- 8 吉見 健夫 「空蟬物語の和歌—歌物語的方法と物語形成—」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年3月

4 夕顔巻研究文献目録

- 1 馬淵 敬子 「『源氏物語』夕顔巻「心あてに」歌の公条説—中世源氏読者のひとつの理解—」『平安朝文学研究』(258)

復刊7・平成10年11月

(259)

- 2 原 豊二 「夕顔物語とその享受の方法―謡曲「夕顔」を軸にして―」専修大学文研論集33・平成11年3月
- 3 金 炳斗 「夕顔の像―その外面と内面を中心に―」日本文学論集23・平成11年3月
- 4 土方 洋一 「移りゆく時の物語―夕顔巻を中心に―」『交渉することば』(勉誠社叢書想像する平安文学)平成11年5月
- 5 清水婦久子 「夕顔の歌の解釈」『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑧夕顔巻』(至文堂)平成12年1月
- 6 吉見 健夫 「夕顔巻の和歌と方法」『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑧夕顔巻』(至文堂)平成12年1月
- 7 助川幸逸郎 「中の品の男の物語―〈惟光物語〉としての夕顔巻―」『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑧夕顔巻』(至文堂)平成12年1月
- 8 陣野 英則 「源氏物語と書写行為―夕顔巻の「いと疎げになりにける所かな」をめぐって―」『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑧夕顔巻』(至文堂)平成12年1月
- 9 藤井 貞和 「かの夕顔のしるべせし隨身ならびに惟光の会話文の一節」学芸国語国文学32・平成12年3月↓
『源氏物語論』(岩波書店)平成12年3月
- 10 松下 直美 「夕顔巻の贈答について―「心あてにそれかとぞ見る」新見―」国文93・平成12年7月
- 11 岡田ひろみ 「『源氏物語』夕顔巻「海人の子なれば」考」古代文学研究第二次9・平成12年10月
- 12 吉田 幹生 「夕顔造型試論」むらさき37・平成12年12月
- 13 森 一郎 「光源氏と女君たち―はかなびたるこそは、らうたけれ―」常磐会学園大学研究紀要1・平成12年12月
- 14 三谷 邦明 「誤読と隠蔽の構図―夕顔巻における光源氏あるいは文脈という射程距離と重層的意味決定―」

- 平安朝文学研究復刊9・平成12年12月↓『源氏物語の言説』(翰林書房) 平成14年5月
- 15 吉海 直人 「この面かの面」攷―『源氏物語』夕顔巻を起点として―『古代中世文学論考五』(新典社) 平成13年1月↓『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月
- 16 工藤 重矩 「源氏物語夕顔巻の発端―「心あてに」寄りてこそ」の和歌解釈―福岡教育大学紀要50・平成13年2月
- 17 吉海 直人 「『源氏物語』の「移り香」―夕顔巻を起点にして―」同志社女子大学大学院文学研究科紀要1・平成13年3月↓『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月
- 18 森 一郎 「夕顔巻を読む―「心あてに」の歌をめぐって―」王朝文学研究誌12・平成13年3月
- 19 松尾 聰 「夕顔の巻の「心あてにそれかとぞ見る」の歌の「それ」は誰をさすか」『源氏物語』不幸な女性たち』(笠間書院松尾聰遺稿集Ⅱ) 平成13年3月
- 20 名波 弘彰 「夕顔巻の怪奇の語りの表現構造」筑波大学文学研究論集19・平成13年3月
- 21 新川 雅朋 「光源氏と軒端の萩の贈答歌」和歌文学研究82・平成13年6月
- 22 松田 成穂 「夕顔巻に触れての覚え書」『平安朝文学芸論』(笠間書院) 平成13年6月
- 23 藤島 由子 「夕顔の謎を解く」(創樹社) 平成13年7月
- 24 千原美沙子 「飛鳥井と夕顔・浮舟」古典と現代69・平成13年10月
- 25 斎藤 正昭 「帚木三帖の時間的構成―「夕顔」巻頭「六条わたりの御忍び歩きの頃」をめぐって―」『源氏物語成立研究』(笠間書院) 平成13年10月
- 26 古賀 典子 「夕顔巻の「夕顔」「狐」「梟」―表現素材から見る玉鬘系後期成立―」むらさき38・平成13年12月
- 27 清水婦久子 「光源氏と夕顔」再論―自然と人物―」源氏研究7・平成14年4月

- 28 綿民 華枝 「サイデンステッカー」訳 『源氏物語』の研究―夕顔巻を中心に― 愛知大学国文学42・平成14年11月

5 若紫巻研究文献目録

- 1 倉田 実 「若紫巻」「養女養育婚姻」譚の生成 『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑤若紫』(至文堂) 平成11年4月
 2 吉海 直人 『源氏物語』若紫巻の「垣間見」再検討 『國學院雑誌』100―7・平成11年7月 ↓ 『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月

- 3 石坂 晶子 「照らし返される藤壺―幻視が意味づける若紫垣間見―」 日本文学48―9・平成11年9月
 4 鈴木 裕子 「若紫巻の和歌「寄る波の心も知らで」考―大島本源氏物語を読む―」 駒沢短大國文30・平成12年3月

- 5 金 秀美 「『源氏物語』若紫巻の北山考―光源氏の移動における空間表現を中心にして―」 平安朝文学研究 復刊9・平成12年12月

- 6 伊藤 鉄也 「源氏物語古写本における傍記異文の本行本文文化について―天理図書館蔵麦生本「若紫」の場合―」 『古代中世文学研究論集三』(和泉書院) 平成13年1月

- 7 野中 和孝 「紫の上の家系表現―「若紫巻」新考―」 活水日文41・平成13年3月

- 8 高田 祐彦 「長編の始動―若紫素描―」 源氏研究6・平成13年4月 ↓ 『源氏物語の文学史』(東京大学出版会) 平成15年9月

- 9 長瀬 由美 「若紫について」 国語と国文学78―4・平成13年4月

- 10 福島由美子 「紫の上論―その「人物」と「像」とのあいまい―」 実践国文学60・平成13年10月

- 11 横井 孝 「子どもの領分(一)——源氏物語「十ばかり」のころ——」実践国文学60・平成13年10月
- 12 増淵 勝一 「若紫」巻舞台の背景」並木の里55・平成13年12月
- 13 三田村雅子 「若紫垣間見再読——だれかに似た人——」源氏研究8・平成15年4月

6 末摘花巻研究文献目録

- 1 松田 成穂 「末摘花巻々末部の読み方に関する異見——歌語「梅の立ち枝」に触れて——」金城学院大学論集国文学編41・平成11年3月↓『平安朝文芸論』(笠間書院) 平成13年6月
- 2 須田 哲夫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑬』(至文堂) 平成12年11月
- 3 金 孝 淑 「末摘花における「唐」——「黒貂の皮衣」と「からごろも」——」平安朝文学研究復刊9・平成12年12月
- 4 松田 成穂 「末摘花巻をめぐって」『平安朝文芸論』(笠間書院) 平成13年6月

7 紅葉賀巻研究文献目録

- 1 小嶋菜温子 「紅葉賀巻の光源氏と冷泉帝——準拠としての童舞と産養から——」『ことばが拓く古代文学史』(笠間書院) 平成11年3月
- 2 川名 淳子 「雑遊び小考——若紫の君の「雑」——」東横国文学31・平成12年8月
- 3 外山 敦子 「『源氏物語』紅葉賀巻の光源氏と源典侍——助詞「や」の両義性が導く恋物語——」愛知淑徳大学国語国文25・平成14年3月
- 4 伊藤 博編 『紅葉賀・花宴』(至文堂源氏物語の鑑賞と基礎知識22) 平成14年4月

8 花宴巻研究文献目録

- 1 藤本 直子 「花宴の奏楽と宮廷の秩序―源氏の舞が反映するもの―」王朝文学研究誌11・平成12年3月
- 2 浅尾 広良 「嵯峨朝復古の桐壺帝―朱雀院行幸と花宴―」『論叢源氏物語2―歴史との往還―』(新典社) 平成12年5月
- 3 堀 淳一 「二つの春鶯囀―花宴巻から少女巻に至る伏流の音調―」『論叢源氏物語2―歴史との往還―』(新典社) 平成12年5月
- 4 藤本 直子 「花宴の奏楽と宮廷の秩序・その二」王朝文学研究誌12・平成13年3月
- 5 伊藤 博編 『紅葉賀・花宴』(至文堂源氏物語の鑑賞と基礎知識22) 平成14年4月

9 葵巻研究文献目録

- 1 東原 伸明 「車争い前後・六条御息所の〈語り〉・〈言説〉・〈喩〉」国語と国文学75―10・平成10年10月
- 2 宮崎莊平編 『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑨葵』(至文堂) 平成12年3月
- 3 鷺山 茂雄 「『葵』「賢木」両巻の女君達―『源氏物語』の人物造型のダイナミズム―」平安朝文学研究復刊9・平成12年12月
- 4 浅尾 広良 「葵巻の物の怪攷―「名立つ」六条御息所―」大谷女子大國文31・平成13年3月
- 5 藤河家利昭 「葵巻の『長恨歌』と和歌―葵上・六条御息所と『長恨』―」広島女学院大学日本文学12・平成14年7月
- 6 吉海 直人 「『右近将監』を読む―家司論の一環として―」古代文学研究第二次11・平成14年10月 ↓ 『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月

- 7 今井 上 「六条御息所生靈化の理路―葵卷再読―」源氏研究 8・平成15年 4月
- 8 縄野 邦雄 「葵、賢木卷の紫上について」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年 3月
- 9 徳原 茂美 「葵上の登場」武庫川国文 61・平成15年 3月

10 賢木卷研究文献目録

- 1 緑川真知子 「賢木」の巻における藤壺詠歌と『長恨歌』 中古文学論攷 19・平成10年12月
- 2 高田 信敬 「宮のあひだの事―光源氏の手紙―」むらさき 36・平成11年12月
- 3 鷺山 茂雄 「葵」「賢木」両巻の女君達―『源氏物語』の人物造型のダイナミズム― 平安朝文学研究復刊 9・平成12年12月

- 4 縄野 邦雄 「葵、賢木卷の紫上について」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年 3月
- 5 新美 哲彦 「賢木卷の本文世界素描―源氏をめぐる女君たち―」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年 3月

11 花散里卷研究文献目録

- 1 神野藤昭夫 「源氏物語の和歌的発想と表現―「花散里」巻の分析を中心に―」『源氏物語の表現と文体下』(風間書房源氏物語研究集成四) 平成11年 9月
- 2 加藤 明子 「花散里の形容から見える源氏・六条院の変化―「おいらか」「おほどか」「のどやか」の違いから―」平安朝文学研究復刊 11・平成14年12月
- 3 秋山 虔・室伏信助編 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 29 花散里』(至文堂) 平成15年 6月

12 須磨巻研究文献目録

- 1 三石志津香 「『源氏物語』の研究―須磨・明石巻の問題点―」帝京国文学5・平成10年9月
- 2 田中 照彦 「『源氏物語』須磨・明石巻における「かたじけなし」の解釈について」解釈46―3、4・平成12年4月
- 3 井上富美子 「光源氏はなぜ須磨へ流謫しなければならなかったのか」二松学舎大学人文論叢67・平成13年10月
- 4 藤河家利昭 「須磨巻における漢詩文と和歌との関わりについて」広島女学院大学論集51・平成13年12月
- 5 坂本 共展 「須磨・明石」『源氏物語の自然と風土』(風間書房源氏物語研究集成十) 平成14年6月
- 6 吉海 直人 「『右近将監』を読む―家司論の一環として―」古代文学研究第二次11・平成14年10月 ↓ 『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月

13 明石巻研究文献目録

- 1 三石志津香 「『源氏物語』の研究―須磨・明石巻の問題点―」帝京国文学5・平成10年9月
- 2 新聞 一美 「平安朝における中国文学の受容―源氏物語明石巻と「琵琶行」―」私学研修・平成11年7月
- 3 田中 照彦 「『源氏物語』須磨・明石巻における「かたじけなし」の解釈について」解釈46―3、4・平成12年4月
- 4 日向一雅編 『源氏物語の鑑賞と基礎知識11明石』(至文堂) 平成12年6月
- 5 袴田 光康 「明石物語の人々とその原点―「明石」巻の諸問題と展望―」『源氏物語の鑑賞と基礎知識11明石』(至文堂) 平成12年6月

- 6 新聞 一美 「源氏物語と白詩―明石巻における「琵琶行」の受容を中心に―」『源氏物語の和歌と漢詩文』(風間書房源氏物語研究集成九) 平成12年9月
- 7 和田 真季 「『源氏物語』明石巻における離別歌をめぐる」光華日本文学9・平成13年8月
- 8 坂本 共展 「須磨・明石」『源氏物語の自然と風土』(風間書房源氏物語研究集成十) 平成14年6月
- 9 山田 利博 「源氏物語・明石巻」我は位に在りし時、過つことなかりしかど、おのづから犯しありければ」考」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年3月

II 引用関係研究文献目録

1 〈伊勢物語引用〉関係研究文献目録

- 1 広瀬 唯二 「『伊勢物語』と『源氏物語』―『伊勢物語』十三段と玉鬘―」武庫川国文52・平成10年9月
- 2 高木 和子 「『源氏物語』の成立についての断章―『伊勢物語』との相関から―」『ことばが拓く古代文学史』(笠間書院) 平成11年3月
- 3 河地 修 「『源氏物語』への道―『伊勢物語』から『源氏物語』へ―」『中古文学研究』(双文社出版) 平成11年4月

2 〈宇津保物語引用〉関係研究文献目録

- (266)
- 1 関 一雄 「うつほ物語本文と源氏物語本文」山口国文21・平成10年3月
- 2 中嶋 尚 「源氏物語螢巻の物語論をめぐる―」うつほの藤原君の女こそ」考」文学論藻72・平成10年

3月

月

- 3 田村 俊子 「『宇津保物語』と『源氏物語』—物語における一世源氏の可能性—」帝京国文学5・平成10年9月
- 4 室城 秀之 「『源氏物語』の引歌—『うつほ物語』の歌との関係から—」『ことばが拓く古代文学史』(笠間書院) 平成11年3月

3 〈王昭君引用〉 関係研究文献目録

- 1 斎藤 奈美 「長恨歌、王昭君などやうなる絵は—絵合巻の引用と秋好中宮—」中古文学69・平成14年5月
- 2 趙 恩 鶴 「王昭君説話について—延慶本を中心に—」『平家物語』の転生と再生』(笠間書院) 平成15年3月
- 4 〈落窪物語引用〉 関係研究文献目録
- 1 小嶋菜温子 「生誕・裳着・結婚・算賀—『竹取』『落窪』から『源氏』へ—」『源氏物語と物語論・物語史』(風間書房源氏物語研究集成七) 平成13年2月

5 〈蜻蛉日記引用〉 関係研究文献目録

- 1 高田 祐彦 「道綱母から六条御息所へ」国語と国文学75—11・平成10年11月—『源氏物語の文学史』(東京大学出版会) 平成15年9月
- 2 池田 節子 「『蜻蛉日記』試論—『源氏物語』との類似点と相違点—」『ことばが拓く古代文学史』(笠間書院) 平成11年3月

- 3 原岡 文子 「前代物語とのかかわり―『蜻蛉日記』『枕草子』を中心に―」『源氏物語と物語論・物語史』（風間書房源氏物語研究集成七）平成13年2月↓『源氏物語の人物と表現』（翰林書房）平成15年5月
- 4 木村 正中 「主として蜻蛉日記の源氏物語への影響」『源氏物語・枕草子他』（おうふう中古文学論集五）平成14年3月

6 〈住吉物語引用〉 関係研究文献目録

- 1 三角 洋一 「浮舟物語の始発と『住吉物語』『源氏物語』における伝承の型と話型」（風間書房源氏物語研究集成八）平成14年10月

7 〈竹取物語引用〉 関係研究文献目録

- 1 井野 葉子 「源氏物語における竹取引用群―浮舟巻を中心に、そして柏木、夕霧物語―」平安朝文学研究復刊7・平成10年11月
- 2 小池 清治 「『源氏物語』の言葉1―下敷きとしての『竹取物語』―」国語科通信104・平成11年2月
- 3 高木 和子 「「かひなき」物語の系譜―『竹取』『古今』『源氏』にみる表現と精神―」関西学院大学人文研究49―2・平成11年9月
- 4 東原 伸明 「光源氏物語の始発とかぐや姫引用―王権侵犯の主題生成Ⅱ桐壺の更衣から光源氏・藤壺へ―」『古代中世文学論考』（新典社）平成11年10月
- 5 諸岡 重明 「翁のなにかし守りけんやうに―『竹取』引用にみる『源氏物語』夕霧巻の一条御息所と落葉宮の物語―」立教大学日本文学84・平成12年7月

- 6 小嶋菜温子 「生誕・裳着・結婚・算賀―『竹取』『落窪』から『源氏』へ―『源氏物語と物語論・物語史』(風間書房源氏物語研究集成七) 平成13年2月
- 7 木山美奈子 「『源氏物語』における『竹取物語』の引用」国語国文学会誌44・平成14年7月

8 〈長恨歌引用〉関係研究文献目録

- 1 陳明姿 「『源氏物語』と『長恨歌』との対比的研究」日本語文学国際会議論文集3・平成10年3月
- 2 陳明姿 「『源氏物語』における『長恨歌』の機能」輔仁大学日本語日本文学24・平成10年7月
- 3 緑川真知子 「『賢木』の巻における藤壺詠歌と『長恨歌』」中古文学論攷19・平成10年12月
- 4 田中隆昭 「源氏物語の歴史の引用から長編物語への創造へ―『長恨歌』『長恨歌伝』引用から始まる日本の虚構の宮廷史―『源氏物語引用の研究』(勉誠社) 平成11年2月
- 5 藤河家利昭 「桐壺巻の『長恨歌』と和歌との関係」広島女学院大学国語国文学誌31・平成13年12月
- 6 三谷邦明 「類似・源氏物語の認識論的断絶―贈答歌と長恨歌あるいは方法としての『形代/ゆかり』―」横滨市立大学論叢3・平成13年3月↓『源氏物語の言説』(翰林書房) 平成14年5月
- 7 斎藤奈美 「『長恨歌』、王昭君などやうなる絵は―絵合巻の引用と秋好中宮―」中古文学69・平成14年5月
- 8 藤河家利昭 「葵巻の『長恨歌』と和歌―葵上・六条御息所と『長恨』―」広島女学院大学日本文学12・平成14年7月

9 〈日本書紀引用〉関係研究文献目録

- 1 石川徹 「光源氏須磨流謫の構想の源泉―日本紀の御局新考―」国語国文学報12・昭和35年11月↓『平安

時代物語文学論(笠間書院) 昭和54年4月

- 2 深沢三千男 「源語と日本紀——一条天皇の感想をめぐって——」文学語学42・昭和41年12月↓『源氏物語の形成』(桜楓社) 昭和47年9月

- 3 関根 賢司 「源氏物語と日本紀」國學院雜誌74—2・昭和58年2月↓『物語文学論——源氏物語前後——』(桜楓社) 昭和55年9月

- 4 山崎 正之 「『源氏物語』と「記紀神話」」二松学舎大学東洋学研究所集刊18・昭和63年3月

- 5 徳盛 誠 「『日本紀竟宴和歌』におけるニギハヤヒ——平安期の日本紀言説——」国語と国文学72—10・平成7年10月

- 6 藤村 潔 「日本紀と玉鬘——源氏物語の問題点——」藤女子大学藤女子短期大学紀要35・平成10年2月

- 7 吉森佳奈子 「『源氏物語』と日本紀」国語国文67—4・平成10年4月

- 8 神野志隆光 「『日本紀』と『源氏物語』」国語と国文学75—11・平成10年11月

- 9 斎藤 英喜 「撰関期の日本紀享受」解釈と鑑賞64—3・平成11年3月

- 10 吉森佳奈子 「『河海抄』の「日本紀」」国語と国文学76—7・平成11年7月↓『河海抄』の『源氏物語』(和泉書院) 平成15年11月

- 11 藤原 克己 「日本紀」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

- 12 藤村 潔 「源氏物語と日本書紀」藤女子大学藤女子短期大学紀要37・平成12年3月

- 13 吉森佳奈子 「『日本紀』による和語注釈の方法」超域文化科紀要5・平成12年7月

- 14 吉森佳奈子 「『日本紀』の広がり」と『河海抄』」源氏研究5・平成12年4月

- 15 藤村 潔 「『鶉の嘴』後片付け」藤女子大学国文学雑誌64・平成12年7月

10 〈枕草子引用〉 関係研究文献目録

- 1 西 耕生 「いどみあらそふ心」 私案―枕草子と源氏物語― 『国語国文学論集』(和泉書院) 平成11年6月
- 2 原岡 文子 「前代物語とのかかわり―『蜻蛉日記』『枕草子』を中心に― 『源氏物語と物語論・物語史』(風間書房源氏物語研究集成七) 平成13年2月 ↓ 『源氏物語の人物と表現』(翰林書房) 平成15年5月
- 3 松田 豊子 「王朝女流作家の美意識と作品創作―清少納言と紫式部の視点から― 『日本文学と美術』(和泉書院) 平成13年3月
- 4 吉海 直人 「『源氏物語』の『枕草子』引用」 『王朝文学の本質と変容』(和泉書院) 平成13年11月 ↓ 『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月

I テーマ別研究文献目録

1 〈雨〉 関係研究文献目録

- 1 宮尾 孝 『雨と日本人』(マルゼン・ブックス) 平成9年12月
- 2 榎 美春 「源氏物語の表現機能―葵巻の「時雨」を起点として―」 『國學院大學大学院紀要29』 平成10年3月
- 3 永田 友市 「時雨のイメージ」 『愛知淑徳大学論集23』 平成10年3月
- 4 岩井 宏子 「歌語「さみだれ」の基層―古今集時代を中心に―」 『国語国文69』 1・平成12年1月
- 5 古橋 信孝 「あめ」 『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 6 小嶋菜温子 「さみだれ」 『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

- 7 神野志隆光 「しぐれ」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 8 米山 忠雄 「雨くだる」考―和語と漢語の間― 解釈46―5、6・平成12年5月
- 9 寺川真知夫 「上代の雨の表記と表現」『上代語と表記』(大修館) 平成12年10月
- 10 藤井由紀子 「須磨の暴風雨―『源氏物語』における神々の諸相―」語文77・平成13年12月
- 11 藤村 潔 「源氏物語蜻蛉卷の降雨」藤女子大学国文学雑誌66・平成13年12月
- 12 藤村 潔 「源氏物語蜻蛉卷の降雨・補記」藤女子大学国文学雑誌67・平成14年7月

2 〈衣装〉 関係研究文献目録

- 1 金 孝 淑 「末摘花における「唐」―「黒貂の皮衣」と「からころも」―」平安朝文学研究復刊9・平成12年12月
- 2 末松 剛 「中世源氏学における赤色袍理解について」日本歴史635・平成13年4月

3 〈一夫多妻〉 関係研究文献目録

- (272)
- 1 胡 潔 「『河海抄』の妻妾論について」中古文学64・平成11年11月
 - 2 坂田紀和子 「平安時代の婚姻制度について―道長の場合―」国文92・平成12年1月
 - 3 福永 進 「藤原道長の栄華と結婚」日本文芸研究51―4・平成12年3月
 - 4 辻本 裕成 「源氏物語の男女関係・結婚・性のあり方」『源氏物語研究集成十二』(風間書房) 平成12年10月
 - 5 金 孝 珍 「紫上の妻としての地位―服喪を中心として―」文学研究論集14・平成13年2月
 - 6 胡 潔 「平安貴族の婚姻慣習と源氏物語」(風間書房) 平成13年8月

- 7 工藤 重矩 「紫の上に対する呼称―「対の上」の用法―」湘南文学15・平成14年1月
- 8 工藤 重矩 「平安朝貴族の結婚と源氏物語」福岡教育大学国語科研究論集43・平成14年1月
- 9 高木 和子 「結婚―光源氏と紫上の関係の独自性」『源氏物語の行事と風俗』（風間書房源氏物語研究集成十二）平成14年3月

10 園 明美 「対の上」といふ呼称」中古文学69・平成14年5月

11 増田 繁夫 「撰関家の子弟の結婚」『源氏物語と貴族社会』（吉川弘文館）平成14年8月

4 〈宇治橋姫〉関係研究文献目録

- 1 磯部 一美 「『源氏物語』「宇治」の女君たち―〈橋姫〉変奏譚として―」愛知淑徳大学論集26・平成13年3月
- 2 星山 健 「橋姫物語における末摘花物語引用」文芸健151・平成13年3月

5 〈絵〉関係研究文献目録

- 1 上野 辰義 「絵画と書―その複合性と記録性」『源氏物語の行事と風俗』（風間書房源氏物語研究集成十二）平成14年3月

2 稲本万里子 「『源氏物語絵巻』を読み解く―蓬生・関屋巻をめぐる―」『源氏物語の魅力を探る』（翰林書房フエリス・カルチャーシリーズ）平成14年7月

3 稲本万里子 「『源氏物語絵巻』の景観―絵合・松風段の復元的考察―」源氏研究8・平成15年4月

6 〈親子〉関係研究文献目録

- 1 萩野 敦子 「『源氏物語』に見る親子関係」『文学の森その2』（駒沢大学苫小牧短期大学）平成10年12月
- 2 小山 香織 「『源氏物語』における子どももの存在——朱雀院五十賀の舞童をめぐる——」国文目白38・平成11年

2月

- 3 山本 登朗 「親と子——宇津保物語の方法——」『森重先生喜寿記念ことばとことのは』（和泉書院）平成11年3月
- 4 赤迫 照子 「匂宮の〈はは〉恋」古代中世国文学13・平成11年6月
- 5 池田 和臣 「おやこ」『王朝語辞典』（東京大学出版会）平成12年3月
- 6 田辺 玲子 「夕霧と子供たち——子沢山な父の視点を通して——」瞿麦11・平成12年6月

7 〈音楽〉関係研究文献目録

- 1 今野 鈴代 「六条院の女楽・奏者の排列に関する一考察」鶴見日本文学3・平成11年3月
- 2 森野 正弘 「源氏物語の表現構造の研究——音楽関連描写における主題の展開——」（國學院大學大学院叢書文学研究科2）平成11年3月

- 3 高橋 亨 「横笛の時空——源氏物語の音楽とその主題的表現——」源氏研究4・平成11年4月
- 4 中川 照将 「薫の恋愛と「箏の琴」——宇治十帖における「合奏」の意味——」語文73・平成11年10月
- 5 中川 照将 「薫の「誤解」と大君の結婚拒否」『古代中世文学論考三』（新典社）平成11年10月
- 6 松岡 心平 「がく」『王朝語辞典』（東京大学出版会）平成12年3月
- 7 赤迫 照子 「〈匂宮の琵琶〉と〈女一宮の箏の琴〉——繋がりあう宇治十帖の音楽——」古代中世国文学15・平成

(274)

12年7月

- 8 上原 作和 「懐風の琴―「知音」の故事と歌語「松風」の生成―」懐風藻研究7・平成13年1月
- 9 和田 克子 「『源氏物語』若菜巻における琴の音の表現を起点として」人文論叢66・平成13年3月
- 10 山下 美樹 「『源氏物語』の合奏―愛情の関係と義務的關係―」日本アジア言語文化研究3・平成13年3月
- 11 堀 淳一 「向きあう響き―宿木巻の一情景における読みの可能性―」『源氏物語の世界』（風間書房）平成13年9月
- 12 若杉 準治 「物語から絵画へ―絵巻の方法―」『日本文学と美術』（和泉書院）平成13年3月
- 13 伊藤鉄也編 「鈴虫」の絵巻詞書を読む『源氏物語』の異本を読む―「鈴虫」の場合―（臨川書店）平成13年7月
- 14 横山 昭子 「『源氏物語』の音楽―音楽をひきたてる自然―」筑紫国文24・平成13年9月
- 15 新聞 一美 「松風」と「琴」―新撰万葉集から源氏物語へ―『王朝文学の本質と変容散文編』（和泉書院）平成13年11月
- 16 石田百合子 「第一御学問第二管弦―音楽面から見た光源氏の印象―」『源氏物語の背景研究と資料』（武蔵野書院古代文学論叢十五）平成13年11月
- 17 利沢 麻美 「音楽―源氏物語における横笛の役割」『源氏物語の行事と風俗』（風間書房源氏物語研究集成十一）平成14年3月
- 18 内藤 聡子 「『源氏物語』若菜下、女楽における琵琶叙述について―「上手めく」「上衆めく」をめぐって―」愛知大学国文学42・平成14年11月
- 19 磯 水絵 「兵衛命婦」考―『源氏物語』の音楽研究にむけて―（二松学舎大学論集46・平成15年3月）

8 〈女にて見る〉 関係研究文献目録

- 1 吉海 直人「女にて見る」追考」解釈45―3、4・平成11年4月↓『源氏物語の新考察』(おうふう)平成15年10月

9 〈陰陽道〉 関係研究文献目録

- 1 廣田いずみ「平安貴族社会における物忌について」お茶の水史学39・平成8年11月
- 2 足助 朋子「『紫式部日記』の賀茂臨時祭と御物忌」国文鶴見31・平成8年12月
- 3 下出 積興『日本古代の道教・陰陽道と神祇』(吉川弘文館)平成9年9月
- 4 小坂 真二「自筆本『御堂関白記』の物忌注記について」東洋研究127・平成10年1月
- 5 藤本 勝義「藤原道長と陰陽道信仰―帰忌日をめぐって―」中古文学論攷19・平成10年12月
- 6 江口 冽『古代天皇と陰陽寮の思想』(河出書房新社)平成11年12月
- 7 柳井 滋「おんやうじ」『王朝語辞典』(東京大学出版会)平成12年3月
- 8 中島和歌子「源氏物語の道教・陰陽道・宿曜道」『源氏物語の思想』(風間書房源氏物語研究集成六)平成13年6月
- 9 中島和歌子「『枕草子』と陰陽道―他の仮名散文と比較しつつ―」国文学研究資料館紀要28・平成14年2月
- 10 深澤 瞳「帝の御物忌と臣下の参籠」大妻国文34・平成15年3月

10 〈垣間見〉 関係研究文献目録

- 1 島貫 明子 「薫と宇治八の宮家―かいまみ・ゆかり・形代―」 緑岡詞林 23・平成11年3月
- 2 塚原 明弘 「光源氏のかいま見―物語展開をめぐる―」 國學院雑誌 100―5・平成11年5月
- 3 吉海 直人 「『源氏物語』 若紫卷の「垣間見」再検討」 國學院雑誌 100―7・平成11年7月 ↓ 『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月
- 4 石阪 晶子 「照らし返される藤壺―幻視が意味づける若紫垣間見―」 日本文学 48―9・平成11年9月
- 5 保戸 塚朗 「かいまみ」 『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 6 三田村雅子 「若紫垣間見再読―だれかに似た人―」 源氏研究 8・平成15年4月

11 〈霞・霧・雲〉 関係研究文献目録

- 1 平沢 竜介 「かすみ」 『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 2 平沢 竜介 「きり」 『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 3 矢嶋 泉 「くも」 『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 4 原 陽子 「大君・中の君物語における〈霧〉という表現」 『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年3月

12 〈形代・ゆかり〉 関係研究文献目録

- 1 島貫 明子 「薫と宇治の八の宮家―かいま見・ゆかり・形代―」 緑岡詞林 23・平成11年3月
- 2 宮下 雅恵 「『夜の寝覚』 論―反〈ゆかり〉・反〈形代〉の物語―」 国語国文研究 111・平成11年3月
- 3 上田満寿美 「準太上天皇の結婚―第二の藤壺のゆかりがもたらしたもの―」 徳島文理大学研究紀要 57・平成

11年3月

- 4 辛 有美 「大君から浮舟への転換―浮舟の「形代性」と「反形代性」―」京都大学国文学論叢2・平成11

年6月

- 5 倉田 実 「狭衣物語の「ゆかり」の語誌」学芸国語国文32・平成12年3月

- 6 市川 範子 「『源氏物語』における〈死〉と〈ゆかり〉―紫の上の死を中心に―」詞林27・平成12年4月

- 7 吉見 健夫 「若菜上巻の方法と和歌―女三の宮と紫の上の形象をめぐる―」『平安文学の想像力』(勉誠出版
論集平安文学5) 平成12年5月

- 8 青井 紀子 「形代」『源氏物語後の思い』(武蔵野書院) 平成12年12月

- 9 三谷 邦明 「類似・源氏物語の認識論的断絶―贈答歌と長恨歌あるいは方法としての「形代/ゆかり」―」
横浜市立大学論叢3・平成13年3月↓『源氏物語の言説』(翰林書房) 平成14年5月

- 10 五十嵐正貴 「源氏物語末尾の物語状況―〈美貌〉と〈形代の論理〉の対象化―」むらさき39・平成14年12月

- 11 高野 典子 「『源氏物語』小野の浮舟について―大君離れ・形代の行方―」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平
成15年3月

13 〈河原院〉関係研究文献目録

- 1 大曾根章介 「かはらのゐん」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

(278)

14 〈髪〉関係研究文献目録

- 1 田中喜美春 「かみ」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

- 2 鈴木 温子 「『源氏物語』「落葉宮」試論―髪と塗籠をめぐって―」駒沢国文38・平成13年3月
- 3 赤迫 照子 「『夜の寢覚』における髪表現―『源氏物語』宇治十帖の引用を糸口に―」国文学攷170・平成13年6月
- 4 三堀 葉月 「源氏物語・女君の髪と向き合う」玉藻38・平成14年11月

15 〈桐壺更衣〉関係研究文献目録

- 1 小山 清文 「桐壺更衣の「遺言」の意義―源氏物語における「女」の「声」―」国文学雑誌64・平成12年7月
- 2 島田とよ子 「桐壺更衣―女御昇格を中心に―」園田国文22・平成13年3月

16 〈後宮〉関係研究文献目録

- 1 倉田 実 「源典侍物語の意味―「典侍」の職掌から―」『紅葉賀・花宴』(至文堂源氏物語の鑑賞と基礎知識22)平成14年4月

17 〈後見〉関係研究文献目録

- 1 三角 洋一 「光源氏と後見」国語と国文学76―4・平成11年4月
- 2 高橋 亨 「うしろみ」『王朝語辞典』(東京大学出版会)平成12年3月
- 3 米田真木子 「『源氏物語』の〈結婚〉「後見」という視座から―光源氏を中心に―」フェリス女学院大学大学院

18 〈高麗の相人〉 関係研究文献目録

- 1 森 一郎 「源氏物語の短篇的読みと長編的読み―源氏物語の構造と方法―」 金欄短期大学研究誌29・平成10年12月
- 2 金 鍾 徳 「高麗人の予言と作意―観相説話との関わりから―」 『ことばが拓く古代文学史』 (笠間書院) 平成11年3月
- 3 田中 隆昭 「源氏物語における高麗人の予言」 『論叢源氏物語2 歴史と往還』 (新典社) 平成12年5月
- 4 熊谷 義隆 「桐壺帝の密通認知―その可能性と高麗の相人の予言―」 『源氏物語の世界』 (風間書房) 平成13年9月
- 5 秋 貞 淑 「『予言』と『謎』との連関―桐壺巻における高麗の相人の予言―」 古代文学研究第二次11・平成14年10月

19 〈齋院〉 関係研究文献目録

- 1 神野藤昭夫 「齋院文化圏と物語の変容」 『散逸した物語世界と物語史』 (若草書房) 平成10年2月
- 2 吉野 瑞恵 「さいわう」 『王朝語辞典』 (東京大学出版会) 平成12年3月

20 〈齋宮〉 関係研究文献目録

- (280)
- 1 山上 義実 「『齋宮女御集』に見る齋宮女御像試論―『源氏物語』との関連から―」 金城国文75・平成11年3月
 - 2 吉野 瑞恵 「さいわう」 『王朝語辞典』 (東京大学出版会) 平成12年3月

- 3 所 京子 『齋王の歴史と文学』(国書刊行会) 平成12年3月

21 〈催馬楽〉 関係研究文献目録

- 1 利沢 麻美 『源氏物語』と催馬楽』ことばが拓く古代文学史』(笠間書院) 平成11年3月
 2 松岡 心平 『さいばら』王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
 3 植田 恭代 『源氏物語』と陵王』論叢源氏物語3 引用と想像力』(新典社) 平成13年5月
 4 中田 幸司 『催馬楽「梅が枝」攷—古今集「よみ人しらず」歌との位相差—』平安朝文学研究復刊10・平成13年12月

- 5 浜田かすみ 『源氏物語』における催馬楽』国文学83、84・平成14年1月

- 6 植木 朝子 『催馬楽「石川」小考—源典侍・朧月夜をめぐって—』紅葉賀・花宴』(至文堂源氏物語の鑑賞と基礎知識22) 平成14年4月

- 7 植田 恭代 『源氏物語』と迦陵頻—極楽往生への憧憬—』紫式部の方法源氏物語紫式部集紫式部日記』(笠間書院) 平成14年11月

- 8 中田 幸司 『催馬楽「総角」攷—神楽歌との連続性—』平安朝文学研究復刊12・平成15年12月

22 〈へさうじみ〉 関係研究文献目録

- 1 白石 佳和 『語りの方法としての「正身」』国語と国文学79—3・平成14年3月

23 へさすらい 関係研究文献目録

- 1 長谷川政春 『物語史の風景』(若草書房) 平成9年7月
- 2 阿部 好臣 「流離の意味・物語の主人公―『源氏物語』須磨の巻を読む―」 日本文学49―8・平成12年8月
- 3 松本 寧至 「『源氏物語』「宇治十帖」のさすらい」 湘南文学15・平成14年1月

24 へ死 関係研究文献目録

- 1 朴 光 華 「『源氏物語』 柏木の死について―「あはれとだにのたまはせよ」を中心に―」 『日本仏教文化論叢下』(永田文昌堂) 平成10年6月
- 2 落合 澄子 「源氏物語における死―第二部、第三部を中心に―」 実践国文学54・平成10年10月
- 3 望月 郁子 「大君の死と中の君の結婚―皇統の血の堅持―」 二松学舎大学人文論叢61・平成10年10月
- 4 宮坂れい子 「王朝物語時代の死生観―その靈魂観について―」 聖徳大学研究紀要9・平成10年12月
- 5 松木 典子 「『源氏物語』 紫の上の死―その光源氏への関わりを見つめて―」 中古文学論攷19・平成10年12月
- 6 内形 貴子 「『源氏物語』の死―紫上を中心に―」 日本文学ノート34・平成11年1月
- 7 平林 優子 「大君の「結婚拒否」と「死」について」 東京女子大学日本文学91・平成11年3月
- 8 橋本 玲奈 「藤壺と紫の上―その終焉をめぐる―(一)―」 樟蔭国文学36・平成11年3月
- 9 藤原 克己 「源氏物語と浄土教―宇治の八の宮の死と臨終行儀をめぐる―」 国語と国文学76―9・平成11年9月
- 10 小池 清治 「『源氏物語』を展開させる原動力としての「死」―『源氏物語』は完結しているという説―」 宇都宮大学国際学部研究論集9・平成12年3月

- 11 市川 範子 「『源氏物語』における〈死〉と〈ゆかり〉——紫の上の死を中心に——」 詞林27・平成12年4月
- 12 永井 和子 「源氏物語の愛と死」 解釈と鑑賞65—12・平成12年12月
- 13 中西 進 「源氏物語と死——千年を越える魅力——」 『源氏物語の美』 (講談社) 平成12年12月
- 14 伊井 春樹 「源氏物語の生と死」 『生と死の文化史』 (和泉書院懷徳堂ライブラリー4) 平成13年6月
- 15 松岡 智之 「死——紫の上の死を中心に——」 『源氏物語の行事と風俗』 (風間書房源氏物語研究集成十一) 平成14年3月

25 〈従者〉 関係研究文献目録

- 1 佐藤 尊礼 「源氏物語「小君」考」 東洋大学大学院紀要35・平成11年2月
- 2 池田 和臣 「けいし」 『王朝語辞典』 (東京大学出版会) 平成12年3月
- 3 島内 景二 「ずいじん」 『王朝語辞典』 (東京大学出版会) 平成12年3月
- 4 松岡 智之 「『源氏物語』の「受領」をめぐって——物語作家紫式部の誕生——」 『論叢源氏物語2 歴史と往還』 (新典社) 平成12年5月
- 5 竹内 正彦 「野分吹く明石の町——源氏物語における家司をめぐって——」 群馬県立女子大学紀要国文学国語学
篇23・平成14年2月
- 6 吉海 直人 「『右近将監』を読む——家司論の一環として——」 古代文学研究11・平成14年10月 ↓ 『源氏物語の
新考察』 (おうふう) 平成15年10月

26 〈身体〉関係研究文献目録

- 1 小島 雪子 「『源氏物語』における身体表現―女の身体と男の身体のあいだ―」『源氏物語の世界』(風間書房) 平成13年9月
- 2 三村 友希 「明石の中宮の言葉と身体―〈いさめ〉から〈病〉へ―」中古文学69・平成14年5月
- 3 安藤 徹 「『源氏物語』の耳伝―女の耳―」国文学論叢48・平成15年3月
- 4 吉井美弥子 「歌う光源氏―帝の「声」の問題から―」『平安文学の風貌』(武蔵野書院) 平成15年3月
- 5 原岡 文子 「雲居雁の身体をめぐる―」源氏研究8・平成15年4月

27 〈親王・皇女〉関係研究文献目録

- 1 土居奈生子 「〈准太上天皇〉の結婚―「女三の宮の降嫁」再検討―」名古屋大学国語国文学83・平成10年12月
- 2 新井 幸恵 「皇女の結婚―大君の背景―」東洋大学大学院紀要35・平成11年2月
- 3 久下 裕利 「民部卿について―王朝物語官名形象論―」『古代中世文学論考2』(新典社) 平成11年3月
- 4 袴田 光康 「『朝顔』巻における「桃園の宮」の再検討―醍醐皇子女の「桃園宮」を通して―」国語国文68―
4・平成11年4月
- 5 赤迫 照子 「「宮」と呼ばれる朝顔齋院―女王の「宮」呼称が意味するもの―」古代中世国文学14・平成11年
12月
- 6 久下 裕利 「兵部卿宮あるいは式部卿宮について―王朝物語官名形象論―」『論叢源氏物語2 歴史と往還』(新
典社) 平成12年5月
- 7 木村 祐子 「兵部卿宮と桃園式部卿宮―光源氏との政治的關係―」中古文学65・平成12年6月

- 8 袴田 光康 『源氏物語』における式部卿任官の論理―先帝と一院の皇統に関する一視点― 国語と国文学 77
— 9・平成12年9月
- 9 高橋 和夫 「親王と二世女王―故常陸宮と末摘花―」 『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑬末摘花』(至文堂) 平成12年11月
- 10 高橋 由記 「蜻蛉」巻の宮の君―式部卿宮女の出仕― 国語国文 70―2・平成13年2月
- 11 新山 春道 「二世女王の婚姻―朝顔の姫君を中心に―」 中古文学 67・平成13年5月
- 12 岩佐美代子 「源氏物語と内親王」 文学 2―6・平成13年12月
- 13 増田 舞子 「源氏物語」光源氏と兵部卿宮の親疎をめぐって―須磨退去前後の構成― 清心語文 4・平成14年8月

28 〈宿世〉 関係研究文献目録

- 1 針本 正行 「『源氏物語』の宿世―藤壺と光源氏の「宿世」を中心として―」 国語科通信 104・平成11年2月
- 2 小林 正明 「すくせ」 『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 3 岩原 真代 「『源氏物語』の「宿世」観―光源氏・紫の上・藤壺を中心に―」 物語文学論究 11・平成13年1月

29 〈前坊・先帝〉 関係研究文献目録

- 1 稲賀 敬二 「帝の院号と時代設定意識」 『論考平安王朝の文学』(新典社) 平成10年11月
- 2 高田 祐彦 「前坊妃・斎宮の母」―六条御息所の準扱一面― 神戸大学国語年誌 17・平成11年2月
- 3 袴田 光康 「朝顔」巻における「桃園の宮」の再検討―醍醐皇子女の「桃園宮を通して」― 国語国文 68―

4・平成11年4月

4 望月 郁子 「前坊」 廃太子」二松学舎大学人文論叢63・平成11年10月

5 広瀬 唯二 「一院と先帝をめぐつて―藤壺女御を視座に―」 鳴尾説林7・平成11年12月

6 袴田 光康 「源氏物語」における式部卿任官の論理―先帝と一院の皇統に関する一視点―」 国語と国文学77

―9・平成12年9月

7 田中 新一 「源氏物語「前坊」についての一考察」 金城学院大学論集43・平成13年3月

30 〈僧〉 関係研究文献目録

1 三角 洋一 「そう」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

2 佐藤勢紀子 「横川僧都の消息と『大日経義釈』―環俗勸奨を支える論理―」 日本文学49―6・平成12年6月

3 今井 久代 「横川の僧都の人間像をめぐつて―「さり」とて雲、霞をやは」を生きる者―」 国語と国文学79―

5・平成14年5月

31 〈月〉 関係研究文献目録

1 浜田 文、中村充一 「観月宴の成立」 東京家政学院大学紀要38・平成10年7月

2 伊井 春樹 「『狭衣物語』における月の描写の効用」『論考平安王朝の文学』(新典社) 平成10年11月

3 沢田 祥子 「八代集恋部における「月」について」 国語国文学会誌42・平成11年3月

4 久下 裕利 「雪と月―本文表現史の視界―」『物語史研究の方法と展望』(実践女子大学文芸資料研究所) 平成

(286)

11年3月

- 5 天野紀代子 「出会いの演出―朧月夜と夏の海辺―」 国文学44―5・平成11年4月
- 6 菅井麻由子 「『源氏物語』「冬の月」試論―朝顔巻をめぐって―」 東洋大学大学院紀要36・平成12年2月
- 7 小嶋菜温子 「じふごや」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 8 藤原 克己 「つき」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 9 青井 紀子 「月の顔に向かひたるやうなる―落葉の宮物語―」『源氏物語後の思い』(武蔵野書院) 平成12年12月
- 10 佐久間和子 「源氏物語と月」続河6・平成13年9月
- 11 浅井ちひろ 「『源氏物語』の詠歌理念―「月の都」歌ことば生成の意図―」鶴見日本文学7・平成15年3月

32 〈罪〉 関係研究文献目録

- 1 卜部 美子 「落葉宮の運命―「罪」の表現からたどる―」 島大國文29・平成13年3月
- 2 渡辺 仁史 「「罪」と苦悩」『平安文芸史攷』(新典社) 平成13年5月

33 〈調度〉 関係研究文献目録

- 1 岩原 真代 「『源氏物語』の「しつらひ」―鈴木卷・女三宮の住環境をめぐって―」 日本文学論究60・平成13年3月
- 2 鈴木 温子 「『源氏物語』「落葉宮」試論―髪と塗籠をめぐって―」 駒沢国文38・平成13年3月
- 3 井筒與兵衛 「六条院の調度―調度品図面集―」『源氏物語の背景研究と資料』(武蔵野書院古代文学論叢十五)

平成13年11月

- 4 末沢 明子 「『源氏物語』の中の屏風をめぐって―語られなかったものの意味―」源氏研究7・平成14年4月

34 〈涙〉関係研究文献目録

- 1 岩井 宏子 「『涙の玉』考―「とほく行く人のためには」歌を中心に―」古代文学研究5・平成11年5月
 2 岩井 宏子 「『七夕の涙』考」帝塚山学院大学日本文学研究31・平成12年2月
 3 鈴木 宏子 「なみだ」『王朝語辞典』（東京大学出版会）平成12年3月
 4 ツベタナ・クリステワ 『涙の詩学―王朝文化の詩的言語―』（名古屋大学出版会）平成13年3月

35 〈匂ひ〉関係研究文献目録

- 1 福田 政義 『王朝人の美意識追風用意―匂ひの美学』（近代文芸社）平成10年5月
 2 小松 英雄 「匂字考」『日本語書記史原論』（笠間書院）平成10年6月
 3 朱 捷 「『匂』という字の由来及びそこからみる日本人の嗅覚と中国人の聴覚」同志社女子大学日本語日本文学10・平成10年10月↓『においとひびき』（白水社）平成13年9月
 4 朱 捷 「再び『匂』という字の由来について」同志社女子大学学術年報49Ⅳ・平成10年12月↓『においとひびき』（白水社）平成13年9月
 5 堀口 悟 「薫りの文脈―『狭衣物語』を中心とする試論―」シオン短期大学日本文学論叢24・平成11年3月
 6 吉田 隆治 「袖のかをり―『源氏物語』の引歌に見られる移り香―」九州大谷研究紀要25・平成11年3月
 7 朱 捷 「源氏物語における「にほひ」の系譜」『吉田弥寿先生古稀記念論集日本語の地平線』（くろしお出版）

版) 平成11年12月 ↓ 『においとひびき』(白水社) 平成13年9月

- 8 三木 雅博 「「匂」字と「にほふ」——菅原道真と和語の漢字表記——『平安詩歌の展開と中国文学』(和泉書院) 平成11年10月

- 9 雨宮 隆雄 「にほひ」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

- 10 尾崎左永子 「源氏物語の薫りの世界」『源氏物語の美』(講談社) 平成12年12月

- 11 金 秀 姫 「浮舟物語における嗅覚表現——「袖ふれし人」をめぐる——」『国語と国文学』78—1・平成13年1月

- 12 吉海 直人 「『源氏物語』の「移り香」——夕顔巻を起点として——」『同志社女子大学大学院文学研究科紀要』1・平成13年3月 ↓ 『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月

- 13 吉田 雅雄 「薫の体臭」『文研論集』37・平成13年3月

- 14 田中 圭子 「『源氏物語』の薫衣香——別れの香りとしての再考——」『広島女学院大学大学院言語B文化論叢』4・平成13年3月

- 15 朱 捷 『においとひびき』(白水社) 平成13年9月

36 〈女房〉関係研究文献目録

- 1 野村 倫子 「蜻蛉」の宮の君——薫の浮舟評を対女房意識よりみる——『日本文芸学』35・平成11年3月

- 2 白幡 由美 「『源氏物語』における侍女——噂する集団——」『国文学論考』35・平成11年3月

- 3 加藤 宏文 「源氏物語、端役の魅力——心ばせある方、数ならぬ身、小宰相の君——」『山口大学教育学部研究論集』49—1・平成11年12月

- 4 山城 裕子 「『源氏物語』における女房について―「右近」の検討―」日本語文化研究2・平成11年12月
- 5 大軒 史子 「にようぼう」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 6 吉海 直人 「親類の女房」攷―乳母に比肩する女房―」日本文学49―3・平成12年3月↓『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月
- 7 増田 繁夫 「女房」とは何か」むらさき37・平成12年12月
- 8 加藤 宏文 「源氏物語、端役の力―宣旨のむすめの「女心地」―」山口大学教育学部研究論集50―1・平成12年12月
- 9 木村 朗子 「平安文学における「召人」の方法―『源氏物語』宇治十帖へ―」『系図をよむ/地図をよむ―物語時空論』(勉誠社出版叢書想像する平安文学7) 平成13年5月
- 10 稻賀 敬二 「夕顔の右近と宇治十帖の右近―作者の構想と読者の想像力―」『源氏物語の世界』(風間書房) 平成13年9月
- 11 加納 重文 「平安中期の女房・女官」『源氏物語と紫式部』(風間書房源氏物語研究集成十五) 平成13年11月
- 12 高野 浩 「秘密露顕者の新規造型―王命婦・小侍従から夜居僧都・弁へ―」平安朝文学研究復刊10・平成13年12月
- 13 原岡 文子 「女房―宇治十帖を中心に」『源氏物語の行事と風俗』(風間書房源氏物語研究集成十一) 平成14年3月
- 14 増田 繁夫 「紫式部と中宮彰子の女房たち―中宮女房の職制―」『紫式部の方法源氏物語紫式部集紫式部日記』(笠間書院) 平成14年11月
- 15 野村 倫子 「宮の君をめぐる「いとほし」と「あはれ」―続・「蜻蛉」の宮の君―」『紫式部の方法源氏物語紫

式部集紫式部日記(笠間書院) 平成14年11月

- 16 三谷 邦明 「源氏物語・端役論の視角―語り手と端役あるいは源典侍と宣旨の娘をめぐって―」『源氏物語の魅力を探る』(翰林書房フェリス・カルチャーシリーズ) 平成14年7月

37 〈仏教〉関係研究文献目録

- 1 藤原 克己 「源氏物語と浄土教―宇治の八の宮の死と臨終行儀をめぐって―」『国語と国文学』76―9・平成11年9月

- 2 中井 和子 『源氏物語と仏教』(東方出版) 平成11年9月

- 3 野田 容子 「宇治十帖における薫の道心とその深化について」『北陸古典研究』14・平成11年9月

- 4 三角 洋一 「源氏物語の仏教語」『源氏物語の表現と文体下』(風間書院源氏物語研究集成四) 平成11年9月

- 5 松本 典子 「源氏物語」薫の道心について―薫論序説・道心の形骸化を招くもの―」『平安朝文学研究』8・平成11年11月

- 6 高木 和子 「光源氏の出家願望―『源氏物語』の力学として―」『日本文芸研究』51―3・平成11年12月 ↓ 『源氏物語の思考』(風間書房) 平成14年3月

- 7 黒川 綾乃 「浮舟の仏道」『愛知大学国文学』39・平成12年1月

- 8 金 恵 真 「源氏物語における出家と救済―主に藤壺、女三の宮、紫上の出家に関する再考―」『中央大学大学院論究』33・平成13年3月

- 9 大場 朗 「『源氏物語』作者の思想と信仰―平安朝天台との比較を中心に―」『源氏物語の背景研究と資料』(武蔵野書院古代文学論叢十五) 平成13年11月

- 10 山中 理江 「源氏物語の仏教―横川僧都の手紙の解釈について―」 夔麦 15・平成14年11月
- 11 佐藤勢紀子 「『源氏物語』の仏観」 日本文学 51―12・平成14年12月

38 〈紫〉関係研究文献目録

- 1 原岡 文字 「むらさき」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

39 〈乳母〉論文目録

- 1 福波 真知 「乳母子小侍従―『源氏物語』の表現から―」 清泉語文 1・平成10年3月
- 2 金子 省子 「日本における乳母の養育についての研究」 愛媛大学教育学部紀要 46―1・平成11年9月
- 3 河添 房江 「めのと」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 4 加藤 宏文 「源氏物語、端役の力―宣旨のむすめの「女心地」―」 山口大学教育学部研究論集 50―1・平成12年12月
- 5 吉海 直人 「『夜の寝覚』の乳母達」 日本文学論究 60・平成13年3月
- 6 内林 瞳 「平安文学に見える乳母―『源氏物語』明石姫君の乳母(宣旨の娘)を中心に―」 国文橋 27・平成13年3月
- 7 吉海 直人 「雲居の雁の大輔の乳母」『源氏物語の新考察』(おうふう) 平成15年10月

40 〈ものけ〉関係論文目録

- 1 森 一郎 「源氏物語の短篇的読みと長編的読み―源氏物語の構造と方法―」 金欄短期大学研究誌 29・平成

10年12月

2 鈴木 里美 「六条御息所における「心の鬼」と生霊としての「鬼」の相関性」日本文学ノート34・平成11年

1月

3 石井 正己 「生霊事件と噂の視点―『源氏物語』のシャーマニズム―」日本文学48―5・平成11年5月

4 鈴木 裕子 「宇治八の宮の「死霊」をめぐる―大君を追いつめたもの、そして阿闍梨の「欲望」―」日本

文学48―5・平成11年5月

5 三苦 浩輔 『物怪物語と沖繩靈異記』(おうふう) 平成11年5月

6 高橋 亨 「源氏物語のものけと心的遠近法」『日本における宗教と文学』(国際日本文化研究センター) 平

成11年11月

7 吉田 幹生 「六条御息所の人物造型―その生霊化をめぐる―」国語と国文学76―12・平成11年12月

8 菅峨 範子 「『源氏物語』における物の怪―六条御息所を中心にして―」日本文学ノート35・平成12年1月

9 藤井 貞和 「ものけ」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月

10 大胡 太郎 「生霊の物語と物語の生霊―『源氏物語』の生霊・噂・語り―」学芸国語国文学33・平成12年3

月

11 並木 由紀 「六条御息所、生霊の源流―「身」と「心」の乖離―」『古代中世文学論考5』(新典社) 平成13年

1月

12 三谷 邦明 「物の怪―源氏物語と紫式部集との絆―夕顔巻と紫式部集との新たな関係構造を求めてあるいは

現実体験の間テクスト性」『紫式部の方法源氏物語紫式部集紫式部日記』(笠間書院) 平成14年11月

13 三田村雅子 「ものけという〈感覚〉―身体の違和から―」『源氏物語の魅力を探る』(翰林書房フェリス・カ

ルチャールシリーズ) 平成14年7月

- 14 今井 上 「六条御息所生靈化の理路―葵卷再読―」源氏研究8・平成15年4月
 15 悉知由紀夫 「『源氏物語』の物の怪―その語義をめぐる考察―」論輯31・平成15年6月

41 〈物語〉関係研究文献目録

- 1 三田村雅子 「枕草子の稲荷詣で」朱42・平成11年3月
 2 若林 薫 「浮舟物語と初瀬の観音靈験譚」国文論叢29・平成12年3月
 3 古賀 典子 「いしやま」王朝語辞典(東京大学出版会) 平成12年3月
 4 吉野 瑞恵 「はつせ」王朝語辞典(東京大学出版会) 平成12年3月
 5 速水 侑 「観音靈場信仰の成立と展開」『源氏物語の鑑賞と基礎知識⑫玉鬘』(至文堂) 平成12年10月
 6 西木 忠一 「『石山詣で』考―『更級日記』における―」樟蔭国文学38・平成12年10月
 7 加納 重文 「稲荷詣の道―平安時代の稲荷詣―」朱44・平成13年3月
 8 濱口 博章 「稲荷大社と古典和歌」朱44・平成13年3月

42 〈病〉関係研究文献目録

- 1 丸山裕美子 『日本古代の医療制度』(名著刊行会) 平成10年5月
 2 高橋 巖 「源氏物語の「なやむ」と「わづらふ」東北学院大学論集121・平成10年12月
 3 中村 一夫 「源氏物語における不調の表現の類義関係―「なやむ」「わづらふ」を中心にして―」神戸大学国

(294)

語年誌17・平成11年2月

- 4 小曾 戸洋 『漢方の歴史―中国・日本の伝統医学』(大修館書店あじあブックス) 平成11年2月
- 5 森 正人 「やまひ」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 6 石阪 晶子 「〈なやみ〉と〈身体〉」の病理学―藤壺をめぐる言説― 『源氏研究』5・平成12年4月
- 7 日向 一雅 「源氏物語と病―病の種々相と」もの思ひに病づく」世界― 『日本文学』50―5・平成13年5月
- 8 久富木原玲 「源氏物語の密通と病」 『日本文学』50―5・平成13年5月
- 9 松岡 智之 「恋の微行と病―『源氏物語』光源氏と匂宮の場合―」 『日本文学』50―5・平成13年5月
- 10 宮下 雅恵 「病と孕み、隠蔽と疎外―『夜の寢覚』を手掛りに―」 『日本文学』50―5・平成13年5月
- 11 三村 友希 「明石の中宮の言葉と身体―〈いさめ〉から〈病〉へ―」 『中古文学』69・平成14年5月
- 12 諸岡 重明 「『源氏物語』〈風邪〉という病の論理―〈絆〉〈俗聖〉・八の宮試論として―」 『立教大学日本文学』89・平成14年12月

43 〈雪〉関係研究文献目録

- 1 斎藤 桂子 「『源氏物語』における雪」 『東洋大学大学院紀要』35・平成11年2月
- 2 斎藤 桂子 「『源氏物語』における雪―紫の上・明石の御方をめぐって―」 『Kyoritu Review』27・平成11年2月
- 3 久下 裕利 「雪と月―本文表現史の視界―」 『物語史研究の方法と展望』(実践女子大学文芸資料研究所) 平成11年3月
- 4 平沢 竜介 「ゆき」『王朝語辞典』(東京大学出版会) 平成12年3月
- 5 藤原里香子 「宇治十帖にみる雪」 『太宰府国文』19・平成13年3月

44 〈夢〉 関係論文目録

- 1 山口 康子 「平安和文の「夢」の引用——『源氏物語』を中心に——」『国語と教育』23・平成10年11月
- 2 雪野紀代美 「『源氏物語』における夢の役割」『文国文学』40・平成11年2月
- 3 大川かおり 「明石入道の夢——語らないことの意味——」『平安朝文学研究』8・平成11年11月
- 4 藤本 勝義 「夢枕に立つ死者——源氏物語の夢をめぐる——」『学芸国語国文学』32・平成12年3月
- 5 藤本 勝義 「源氏物語の夢想——王朝の夢告げの実態との関連——」『論叢源氏物語』2 歴史と往還（新典社）平成12年5月
- 6 古橋 信孝 「ゆめ」『王朝語辞典』（東京大学出版会）平成12年3月
- 7 柳沢 良一 「夢の古典文学——平安時代を中心として——」『日本文学研究年誌』10・平成13年3月
- 8 島内 景二 「夢の文学誌——その推進力と破壊力——」『夢そして欲望』（勉誠出版叢書想像する平安文学5）平成13年10月
- 9 伊藤 好英 「物語と夢」『夢そして欲望』（勉誠出版叢書想像する平安文学5）平成13年10月

45 〈老人〉 関係研究文献目録

- 1 松木 典子 「『源氏物語』 幻卷御仏名の光源氏について——「古りぬる齡の僧」による光源氏賞賛の照らすもの——」『中古文学』65・平成12年6月
- 2 外山 敦子 「『源氏物語』の年齢明示の方法——小野の母尼を中心に——」『愛知淑徳大学論集』26・平成13年3月
- 3 外山 敦子 「〈雑音〉としての「声」——『源氏物語』の老女を中心に——」『愛知淑徳大学国語国文』24・平成13年3月

(296)

3月

- 4 菊地 仁「〈老い〉の表象」国語と国文学79—5・平成14年5月

46 〈童〉関係研究文献目録

- 1 横井 孝「子どもの領分(一)——源氏物語「十ばかり」のころ——」実践国文学61・平成13年10月
- 2 横井 孝「子どもの情景——『源氏物語』の点景から——」国語と国文学79—5・平成14年5月
- 3 平井 仁子「狭衣物語試論——子の意味を問う——」講座平安文学研究十六(風間書房)平成14年5月
- 4 横井 孝「子どもの領分(二)——物語、おとなと子どもの間——」実践国文学62・平成14年10月
- 5 蟹江希世子「紫の上と犬君——物語解釈のコード——」解釈48—11、12・平成14年12月

47 〈笑ひ〉関係研究文献目録

- 1 古沢 利枝「『笑い』に関する語について——「笑ふ」と「ゑむ」を中心に——」『一の坂川姫山国語国文論集』(笠間書院)平成9年5月
- 2 菊池 祥子「浮舟の変質——東屋・浮舟両巻における「人笑へ」の多用と手習・夢浮橋両巻における「人笑へ」の皆無——」日大語文104・平成11年6月
- 3 朝日真美子「源氏物語の「人笑へ」の諸相」『井手至先生古稀記念論文集国語国文学藻』(和泉書院)平成11年12月
- 4 小嶋菜温子「ひとわらはれ」『王朝語辞典』(東京大学出版会)平成12年3月
- 5 北川久美子「『源氏物語』における「人笑へ」——「人わろし」との比較を中心に——」清心語文2・平成12年8月

6 北川久美子 「『源氏物語』における「人笑へ」——「名」「世語り」と「人笑へ」との関係を中心に—— 清心語

文3・平成13年8月

7 田中栄一郎 「『うちゑむ』考——源氏物語の場合——」 二松学舎大学論集46・平成15年3月